

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290200981		
法人名	社会福祉法人 幼老育成会		
事業所名	グループホーム サクラ白木 ユニット1		
所在地	佐世保市白木町22番地		
自己評価作成日	平成28年10月6日	評価結果市町村受理日	平成29年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成28年11月24日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念『まごころ』のもとに、スタッフ一同、本当の家族のように愛情を込めて、明るく楽しい雰囲気の中、入居者様のお手伝いをさせていただいています。地域の行事には積極的に参加し、また、隣接の小規模多機能ホーム、認知症デイサービスと共にサクラ白木として合同で行事を行い、地域との交流を図っています。庭に畑を作り自家菜園を行って、種まきから収穫までみんなで楽しんでいます。『自分の親を入居させてもいいなあ』と思える施設づくりを目指しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は社会福祉法人で、診療所や特養ホームなど複数の事業所がある。ホームは設立3年であるが、地域の行事へ招待されたり、出展依頼があるなど利用者が地域の一員として受け入れられている。職員が餅つきを手伝ったり、大雪の日の雪かきや飲水を届けるなど積極的に地域へ貢献し、溶け込もうとする姿勢が窺える。消防訓練に婦人部の自営消防団の参加があり、ホーム行事に高校生がボランティアで手伝いに来るなど地域との関係が深まっている。法人内の協力関係が確立しており、医療面では週2回の往診があり、毎日、診療所へ利用者の健康状態を伝え、夜間急変時の指示を受けるなどの連携は本人・家族、職員の安心に繋がっている。職員は、理念である「まごころ」を支援の中心に据え、利用者一人ひとりのペースに合わせ、寄り添い、共に笑い合う明るく家庭的な雰囲気のホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に意識できるように、ホームの理念と心得を毎日唱和して、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	理念の「まごころ」と心得を毎日唱和し確認しながら、利用者一人ひとりに寄り添い、笑顔の絶えない介護実践に取り組んでいる。新人職員には、声掛けや気持ちの伝え方を指導している。家族のような関係で接しているが、節度をわきまえ、言葉遣いは職員同士で注意し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会の夏祭りなどの行事に、利用者、スタッフ共に参加。地域清掃等の活動にはスタッフが参加している。事業所主催の行事にも地域の方に参加して頂き、交流を図っている。	自治会の一員として、清掃活動や草刈りなどに職員が参加している。地域の祭りや餅つきなどに、利用者も出掛けており、ホームの行事に高校生のボランティアや住民が参加し、交流を深めている。大雪で断水の時は地域の雪かきと飲水を届け、住民に感謝されるなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事や事業所の行事などにお互いが参加し交流することで認知症の方と接していただく機会を届け、地域へ発信し、理解と支援をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、隣接の小規模多機能ホームと合同で開催し、報告、情報交換などを行い、サービスの向上に努めている。	年6回、法人内3事業所と合同で開催しており、ホームの現状や行事、研修報告などの後、意見交換を行っている。議事録を整備しており、詳しい内容の記載から、地域の行事や活動依頼や行政との情報交換など活発な様子が窺える。出された意見やアドバイスをサービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に行政担当者の参加あり、報告、情報交換を行っている。また福祉課や他の行政機関とも連携して運営に取り組んでいる。	市の窓口には、更新手続きや相談、報告などに毎月のように出向いている。担当課職員の訪問もある。市主催の研修会などにも職員が交代で参加し、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を行い、意識向上に努めている。声掛けやケアの方法に不安や疑問が生じた際には、スタッフ会議を行い、事例検討するなど事業所全体で身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束しないケアの実践に取り組んでいる。勉強会では事例を上げ、声掛け、ケアの方法など検討を行っている。言葉遣いなど気付いた時は、その都度注意したり、申し送り時に話し合っている。日中は玄関の施錠も無く、見守り支援で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い、意識向上に努めている。言葉掛けなど気になったときにはその都度スタッフ間で声掛け、話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて制度の活用を支援している。現在、成年後見制度を利用され、後見人と協力して支援行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明と、本人・家族の意向などを伺い、理解の上で契約行っている。改定などの際には、文書等でお知らせし同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からコミュニケーションをとり利用者の意見や要望を聞き取り、家族訪問の際には状況を伝え要望等を伺うようにしている。意見や要望があった際にはスタッフ間で話し合い、記録をとって情報の共有に努めている。	家族等の訪問時には、帰り際に必ず声を掛け、要望等を聞き取っている。遠方の家族へは電話で話し、伝達帳に記録し職員間で情報を共有している。利用者が好む習慣などを家族から聞き、支援を行うなど反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月フロア会議を開いて意見や要望等を聞き取り、話し合っ、業務や勤務体制の見直しなど行っている。	フロア会議や申し送り時に、職員の意見や要望等を聞き取り、必要に応じ面談を行っている。自己評価表を基に年1回面談し、職員の勤務意欲やスキルアップに繋げている。勤務時間や休暇などシフト変更を行い、職場環境に配慮している。備品の購入や手摺りの修繕などの意見の反映がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、各スタッフに自己評価をしてもらい、実績や今後の目標などの把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隣接の事業所と合同で毎月勉強会を行い、また経験や技量に応じて外部研修に参加してスキルの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接の事業所との合同の毎月の勉強会や、合同行事など行い交流を図っている。市の連絡協議会に加盟して研修会等に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談などで不安なことや要望等を聞き取り、情報をスタッフで共有して、安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の気持ちや要望等を聞き取り、いつでも相談していただけるよう信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、スタッフ、その他関係機関と相談して支援内容を検討し、必要に応じて他のサービスとの連絡・調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の配膳や食器拭き、洗濯などの家事を一緒に行っている。また裁縫など得意分野を活かした作業をお願いするなど共に支えあう関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日頃の様子を伝え、意向や要望を伺うようにしている。行事に参加して頂いたり、一緒に外出してもらうなど共に協力して支援行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前からの馴染みの美容院に出かけたり、食事や買い物に出かけたりと馴染みの関係が継続できるように努めている。	職員はアセスメントや日々の会話から、利用者の生活歴や習慣を把握している。家族や趣味仲間の面会がある。馴染みの理美容院の利用や家族と墓参り、法事へ行っている。友人との外食や職員同行で結婚式への出席、郵便局へ出掛ける利用者もいる。毎月、神父や信者仲間の訪問があるなど馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でトランプをしたり、歌を歌ったりと交流を図り、閉じこもりがちの方にはスタッフが訪室して話をしたり、スタッフが調整役になって関係を支えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も面会に行ったり、家族や関係先からの相談など伺い、退去後のフォローに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や言動から思いや意向を汲み取り、また家族からも協力いただき、情報を共有して支援行っている。	職員は日頃から、利用者と1対1でゆっくり話す機会を持つことを心がけている。難聴や発語困難な利用者は、仕草や表情などで思いを汲み取っている。又、職員が筆談で、利用者の意思を確認することもある。家族からの情報など把握した内容は、職員伝達帳やフェイスシートに追記し、情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族などから以前の暮らしぶりや生活歴などを伺い、スタッフ間で共有し把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子や言動、体調など記録し、毎日申し送りを行い、一人一人の現状をスタッフ間で共有し把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフが中心となり、アセスメント・モニタリングを行い、本人、家族などの意向を元に定期的に会議を開き、スタッフ間でケアの内容を検討してケアプランを作成している。	利用開始時の暫定プランは、1週間で見直している。プラン切り替え時は、フロア会議で職員がケアを検討している。利用者担当の職員が、アセスメントやモニタリングを行い、本人や家族の要望を聞き取り、ケアプラン会議に参加している。本人、家族の同意を得て、評価表で毎日のケアプランの実施状況を記録し、見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人カルテに記録し、また重要な事柄は、伝達帳を利用してスタッフ間で共有できるようにしている。履行表を作成しプランの実践、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常の支援の中で気づきがあれば、その都度スタッフ間で共有、検討してその時々に必要な支援を実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域、事業所がそれぞれの行事などにお互いに参加して親睦を深め、協力できる関係作りに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師による定期的な往診と、看護師の訪問があり、急変時にも指示を受けられる体制を整えている。以前からのかかりつけ医や専門医の受診も家族の協力を得て継続支援している。	かかりつけ医は家族や利用者の意向に沿って決定している。法人内の医療機関が協力医であるため、ホームは毎日、利用者の状態をファックスで知らせており、週2回の往診の他、急変時は指示を得ている。受診後は家族、職員間で報告し、個人記録や伝達帳に記載し共有している。職員は急変時の対応を理解している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に協力診療所の看護師の訪問があり、日々の様子や状態、気づきなど伝え、相談、指導など連携して利用者の体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に面会に伺い、医療機関と治療経過など情報共有し、状況の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針に基き、ホームとしてできることや常時医療行為が必要になった場合の対応などを説明している。必要に応じて、家族、主治医も交えてケアの方針を検討し安心して生活できるような支援に努めている。	「看取りに関する指針」を明文化し、契約時に家族へ説明、同意の署名を得ている。ホームが出来ること出来ないことを説明し、医療行為を伴う場合の他施設への紹介など支援している。医療行為を伴わない看取り介護については、家族や利用者の意向や職員の意見を基に、検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会に参加し、急変時や事故発生時に対応出来るスキルの習得、確認に努めている。マニュアルを備えているが、スタッフの技量に差がある為、定期的に訓練を継続していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の避難訓練を行っている。消防署主催の防火・防災安全講習会にも参加し災害対策に努めている。夜勤者が毎日防災確認を行っている。昨年度から地域住民にも訓練に参加してもらい、非常時の協力を依頼している。	年2回、内1回は消防署立ち合いの下、夜間想定で実施しており、地域の「自衛消防団」婦人会や自治会長が参加している。消防署主催の講習会の参加や夜勤者が、毎日防災確認を行うなど、防災意識を高めている。ただし、自然災害の避難訓練や消防署立ち合い時の総評の記載や非常持ち出し品の整備はこれからである。	利用者と職員の命を守るためにも、自然災害の避難訓練や火災の訓練回数増の検討を期待したい。また、消防署立ち合い時の総評は専門家からみた指摘であり、記録し次に活かすことが望まれる。非常持ち出し品の整備も待たれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した声掛けやケアに努めている。日常の支援で起こりうるスピーチロックに気遣い、スタッフ間で注意喚起を行っている。	職員は、必ず利用者の意思を確認し、利用者本位の支援を心掛けている。羞恥心に配慮し、さりげなくトイレ誘導したり、居室に入る時は必ずノックするなどプライバシーや人格を尊重した声掛け、会話に努めている。個人情報の取り扱いが契約時に家族へ説明し、同意の署名を得ており、職員は守秘義務の誓約書を提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者、スタッフが共にゆっくり過ごす時間を作り、思いを表出しやすい環境作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の生活の流れの中で、本人の希望や体調に配慮して支援できるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの衣服を季節や気候に合わせて相応しい服装をしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みに応じて献立を作成し、準備や片付けなど一緒に行っている。正月やひな祭りなど行事にちなんだ食事を提供し、季節を感じられるように工夫している。	献立は職員が利用者の希望を取り入れ、当日ユニット毎に決めている。利用者の嗜好に対応し、さらに利用者にあった形状で準備している。利用者は野菜の下ごしらえなど出来ることを手伝っている。誕生日は希望のメニューと手作りのケーキで祝い、季節毎の行事食や花見弁当、外食へ行くなど食事を楽しめるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食事の摂取量を確認し、状態に応じて適量を提供している。飲水量は季節や状態など必要に応じて測定を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け誘導し、必要に応じてケアを行い、夜間に義歯の消毒洗浄をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、個々のパターンに合わせて声掛け誘導を行っている。夜間は必要に応じて居室でポータブルトイレ使用しているが、日中はできるだけトイレで排泄できるように支援を行っている。	職員は排泄チェック表で、利用者の排泄リズムを共有し、声掛け、誘導している。また、排泄の自立支援を理解し、夜間はポータブルトイレ使用の利用者も、日中はトイレでの座位排泄を基本として支援している。退院時はおむつの利用者がリハビリパンツへ移行した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維を多く含む食材の摂取や、十分な水分確保に努めている。毎日歩行訓練や運動を促し、便秘がちな方には排便体操を取り入れたり、自然排便できるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日を設定しているが、希望や体調に応じて、曜日や時間を変更したり、柔軟に対応している。	入浴は曜日を決め、週2回を基本として支援している。利用者の気分や体調により入浴できない時は、曜日を変えたりシャワー浴や清拭で対応している。車椅子の利用者も湯船に浸っている。好みのシャンプーの持ち込みや希望があれば同性介助にも対応している。職員と1対1の入浴時間は利用者の会話が弾んでいる。	在宅時代の習慣や、日本人の入浴での癒し文化を鑑みて、入浴回数増を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や生活リズムに合わせて、自由にフロアや居室で休息できるように支援を行っている。。また、居室の室温や寝具の調整をし、安眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルに保管いつでも確認できるようにしている。処方の変更があった時には、副作用の確認、症状の観察などに努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみなど日々の生活のお手伝いをして頂いている。散歩や買い物などの外出や、トランプ、歌などのレクリエーション、また毎月季節に合った行事など企画して楽しく過ごせるような支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、希望や声掛けによりホーム周辺へ散歩に出かけている。また、花見やドライブ、外食など実施し、時には家族の方々にも参加して頂き一緒に楽しんでもらえるように支援している。	気候の良い日は、車椅子の利用者も一緒に散歩に出掛けたり、外気浴を行っている。週2回の買い物には利用者も一緒に出掛けている。夏祭りや餅つきなど地域行事にも参加している。クリスマスイルミネーションや季節の花見などのドライブ、水族館、演芸大会など毎月外出がある。その日の外出希望も出来る限り支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に事業所でお小遣いとしてお預かりし、希望に応じて買い物など支援して金銭管理行っている。要望に応じて家族の同意の下、小額を保持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、家族や親しい方への電話や手紙のやり取りなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝、フロアや廊下、玄関、手すりなどの清掃や換気を行い環境美化に努めている。季節を感じ、楽しんでもらえるように季節毎に飾り付けを行っている。	ユニットは1、2階にあり、リビングは季節の貼り絵など利用者の手作り作品や飾り付けで季節感があり、神棚に利用者が毎朝、拍手を打ち拝んでいる。テーブルで写経したり、ソファで寛ぎテレビを見たり、思い思いに過ごしている。換気や掃除は、朝から職員が行い臭気も無く、居心地よい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には、ソファを配置し誰でも、気軽に会話ができる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火気以外は馴染みのもの、使い慣れたものなどの持込で頂き、本人、家族とも相談しながら写真や飾りつけなど好みに応じて居心地良く過ごしていただけるよう工夫している。	居室への持ち込みは自由で、使い慣れた整理棚やテレビ、椅子など馴染みの物を持ち込んでいます。家族の写真や好みの飾り物があり、その人らしい居室になっている。掃除は職員が行っているが、ベッド下に埃が残り、ポータブルトイレがそのまま置かれている。	衛生面から掃除の徹底が望まれる。また、居室は家族や友人などの訪問もあるため、居心地の良い居室となるよう、ポータブルトイレの目隠しなど工夫に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	『トイレ』『浴室』など認識しやすいように表示している。各所に手すりを設置、不要な物は通路に置かないなど安全にできるだけ自立した生活ができるよう配慮している。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290200981		
法人名	社会福祉法人幼老育成会		
事業所名	グループホームサクラ白木 ユニット2		
所在地	長崎県佐世保市白木町22番地		
自己評価作成日	平成28年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るく利用者様も職員も笑顔で過ごされている。</li> <li>・自身の親と思ってお世話させて頂いている。</li> <li>・自分の家のようにくつろいで安心して暮らせる場所となる様にお世話させて頂いている。</li> <li>・入居者様の身体の状態は少しずつ変化しているが、その方に合わせた見守りや声かけ、介助を行っている。</li> </ul>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者の</li> <li>2. 利用者の2/3くらいの</li> <li>3. 利用者の1/3くらいの</li> <li>4. ほとんど掴んでいない</li> </ol>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族と</li> <li>2. 家族の2/3くらいと</li> <li>3. 家族の1/3くらいと</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎日ある</li> <li>2. 数日に1回程度ある</li> <li>3. たまにある</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ毎日のように</li> <li>2. 数日に1回程度</li> <li>3. たまに</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大いに増えている</li> <li>2. 少しずつ増えている</li> <li>3. あまり増えていない</li> <li>4. 全くいない</li> </ol>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての職員が</li> <li>2. 職員の2/3くらいが</li> <li>3. 職員の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族等が</li> <li>2. 家族等の2/3くらいが</li> <li>3. 家族等の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時に職員で理念唱和しているが理念の全体的な理解はできているが全員が実践できているかは定かではないと思う。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加又、地域の方々の施設行事への参加の声かけを行っている。施設周辺での散歩や外出の際、地域の方との挨拶やコミュニケーションをとり日頃より心がけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について理解や協力をして頂ける環境作りをしている。質問等を受けた時など、できるだけ分かりやすい様に説明するよう心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に小規模・認知デイと合同で運営推進会議を開催しその際、入居者様や御家族様、地域の方などに参加して頂き意見をサービスの向上に活かすようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて報告している。又、疑問点や分からない部分は市のほうへたずねたりしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を開催したり研修へ参加している。日中は玄関は開放となっている為、利用者様の所在確認など日頃から目配りなどの徹底に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を催して高齢者虐待についての理解を深めて防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度を利よされている利用者様もいらっしゃるが職員の勉強不足もある為、今後勉強会などの開催も必要。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者様や御家族様に対し不安や疑問をお聞きして十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様と話し意見や要望等をお聞きしている。又、御家族様の面会時、現状報告、相談、御家族様からの要望や相談などをお聞きしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング等で職員の意見など協議し働きやすい環境作りを図っている。職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績、勤務状況は把握している。職員間でコミュニケーションを図り働きやすい雰囲気を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	状況に応じて、研修会への参加を行いスキルアップの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模や認知デイとの合同でテーマに沿って勉強会を月1回実施している。サービス向上につながる様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様とゆっくり話し合う時間を設けて要望や不安なことを聞き取りケアに結びつける様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間の許される限りは見学時や相談時に聴きとり契約時に時間をとって頂き聴取できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様と御家族様が何を必要とされているのか見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を畳んだり食後の食器拭きなど入居者様の身体状況に応じた手伝いをして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて電話での相談や報告、面会時に行っている。面会時や行事参加時に一緒に考えて頂いたりそれぞれの御家族様の状況に応じて関係調整に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が希望される場所(店、理容室、民間施設[郵便局]へお連れしたり、場合によっては入居者様の状況を先にお伝えするなどして実施している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳の不自由な入居者様やなかなか御自分から話されない方には職員が間に入りコミュニケーションを図っている。行事を行った際は同席する(配置や食席など)メンバー等を職員の方で考える場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関への入院や他の施設に移動された後も面会に行ったり、御家族様への声かけ(行事参加)や支援も出来る限り行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人様に意向の確認を行い希望にそえる支援を行っている。御家族様に要望がないか声かけや新たに思いや意向がないか変更がないかお聞きするように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	医療機関や介護支援機関からサマリーを頂いたり御家族様からの情報収集や入居者様からの会話などそれ以外では生活習慣等から情報を得る努力を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人カルテや業務日誌、申し送りノートなどに記録を残している。(ADLや薬に関する事、その他)。1日1回(全体)の申し送りや各フロア(ユニット)で入居者様に関する情報を共有しあえるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様をより詳しく理解し対応できるよう担当制を設けて大まかな支援を考えて職員間で話し合いやアイデアを出し改善していけるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテや業務日誌などへ日々の様子や体調を記入し状況変化が読みとれるよう努めている。各、チェック表などを設け普段から目を向けなければならない事や変化に気付いていけるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様や御家族様の状況に応じた通院や送迎などの支援を柔軟に対応するようにしている。外出や外泊など希望に応じ対応することで可能な限りの支援をしたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の行事に参加したり運営推進会議を通して地域の方と互いに協力し合える事がないか考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	決定は基本的に御本人様や御家族様に委ねている。事情により変更(急変)する場合もある為、御家族様に契約の際、選択をする場を設け了解を得ている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付きや変化がある場合、管理者へ相談や報告を行い、花ぞ野診療所NSに報告し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関や主治医と連携をとって対応している。入院時はサマリーの作成にあたり情報を提供したりホーム側もサマリー制作を行っている。御家族様と病院の橋渡しのことをホームで行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為面でホームでは対応が難しい場合もある。入居者様の状態に応じ早い段階で御家族様に話や説明を行っている。(ホームで出来る事や出来ない事)		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応のマニュアルを作成している。勉強会など参加しているが急変時の対応や応急手当については実践力は乏しい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災においては避難訓練を年に2回実施している。地域の方へも協力して頂けるようお願いしている。地震や水害などの対策は課題であると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の歩んでこられた人生を大切に思い誇りやプライバシーに配慮した言葉かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で活動する前に必ず本人様の意思を確認して行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	主体は入居者様である事を忘れずに職員が入居者様のペースに合わせるよう努力する。日常生活の中で入居者様が希望されるものは出来る範囲で提供できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔に保てる様に選択や衣類チェックを行っている。基本、入居者様に御自身で衣類は選んで頂いているが難しい場合、職員と一緒に選ぶ場合もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ物の好みを聞いたりと同じようなメニューが続かないように配慮している。食後は食器拭きなどを共に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の食事の摂取量、飲水量をチェック表に記入し職員間で確認を行っている。それに応じた対応を努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	磨き残しや残渣物がある際は用具を活用し介助行いケアの形態を工夫している。義歯は浸水(夜)を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄の記録を行っている。間隔を把握し声かけのタイミングを計っている。職員がトイレ内に一緒に入る事の違和感をできるだけ感じられないよう心がけていきたい。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便がスムーズでない入居者様には水分摂取や軽い運動などで身体を動かして頂いたり、自力での排便が難しい場合、その方に適し緩下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯や曜日は考慮し決めてしまっている部分がある。その日の体調や気分によってはシャワー浴や清拭という対応に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも休みたい時には自由に居室で休んで頂き夜間も好きな時間に入床して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援は誤りがない様に複数の職員で確認して行っているが薬の内容についてはまだ勉強不足な所もあると思う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の各個人の力を発揮してもらえるようにその人その人に合った仕事(お手伝い)をお願いし感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外へ出たい方は声かけし天候がよければ職員と散歩をしている。季節や天候を配慮しながら花見やドライブ、散歩、外食などに外出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が可能な入居者様には御家族様の了承を得て、管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の状況に応じて、御家族様と連絡がとれる様、協力して頂いている。又、耳が不自由な入居者様に関しては職員が間に入り、御家族様との電話のやり取りなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁飾りや七夕飾り、クリスマス、お正月など季節感ある空間づくりを行っている。貼り絵など入居者様と職員で作成したり作成後は目につく場所に貼り楽しんで頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席の他にフロア内にソファを配置し入居者様同士で会話を楽しまれる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御自宅より慣れ親しんだ家具や装飾品を持ちこんで頂いたり写真を(御家族様の)飾ったりして居心地のよい空間作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	独歩や車椅子使用など形態は違うが通路の確保や椅子の使い分けなど工夫している。機能については緩やかであっても低下はしていくという意識を持ちミーティング等で環境整備を随時、話合っていくようにする。		